

第4回 浦河町総合計画審議会議事録

開催日時 平成29年1月24日（火）10時00分～11時50分
開催場所 浦河町役場 2階 大会議室
出席委員 19名（早坂誠会長、小林司会長職務代理者、武田宗務委員、神原大輔委員、高村祐太郎委員、齋藤善厚委員、富田貴憲委員、新保雄司委員、木内稔委員、上田正則委員、上新雅人委員、小林孝範委員、津澤静子委員、小林美代子委員、永田善美委員、村下知宏委員、杉山綾子委員、三浦敦子委員、野上由佳委員）
欠席委員 5名（菅正輝委員、遠山寛委員、土谷進委員、濱谷雅樹委員、富永孝幸委員）
浦河町出席者 3名（柳谷企画課長 葛西企画課主幹 荒木企画課主査）

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 審 議

資料1：第7次浦河町総合計画基本構想（案）について事務局より説明

【A委員】 P8政策Ⅲ「活力を生み出すまちづくり」に鉄道の文言があるが、日高線はどうなるのか？

【事務局】 JR側は一方的にバス転換したいと示しているが、日高線沿線自治体協議会では早期復旧を要請。

【B委員】 先日、所属している団体で興味のある方に呼びかけて総合計画の勉強会を行ったので、そちらの中で出た意見と私個人としての意見をあわせてお伝えしたい。その会では、役場事務局に了承を得て資料提供を行ったが、構想の部分に関して、文章がずらっと書いている時点で見づらい、グラフで表記したほうが良いという意見があった。あと、改めて読んでみたが、文章でいろいろなことが一つの項目に詰め込まれているので、前後がちぐはぐになっていると感じる部分がある。例えば、基本構想の部分でP3(2)人口の流出、政策のパッケージでいくと、郷土愛の醸成という部分とつながっているが、浦高生の意向調査で約4割が浦河へのUターンを希望となっているが、この4割は高いと評価していると思う。希望しているけど、戻れないのであれば、企業側と高校生のスキルがマッチしないのかもしれないので、高校生に必要なスキルを身につけてもらうとか、もしくは希望する職種がないのであれば、雇用の確保・創出が必要。現状の把握と解決の部分がいろんなものを組み合わせてちぐはぐになっているのではという印象を受けている。

【C委員】 P8政策Ⅲ「活力を生み出すまちづくり」で、ふるさと納税が27年度は3億円、28年度は4億円超えるというかたちであれば、聞いたところによると、寄附された方々が、教育や子育てに使ってほしいという要望もあるが、その他にも浦河町独自の商品を開発する事業に対しては、手厚い補助を出すなど熱心な企業、事業所に対しては、町として助成して欲しい。

【事務局】 商品開発に対しては、補助制度がある。年間5件くらい利用されていても、その後につながっていない現状もあるので、もっとPRしていかなければという部分はある。

【C委員】 さきほど、B委員が言われた求人と就職のミスマッチと関連して、P4(4)活力・賑わいの創出の中で、商業と農業、サービス業と分けて、課題も含めて記載されているが、改めて高校生が卒業したあとの働く場所がない。事務系の仕事を希望する高校生が多いようなので、やはり産業振興とか雇用創出が一番の課題だと思う。雇用のミスマッチと賑わいの創出を関連付けて。

【事務局】 雇用の創出が一番難しい。

【C委員】 どの自治体でもそうだと思う。

【事務局】 こちら側としては、地域のことを理解した後に一度、進学などで町外に出て、スキルを持って帰ってきてから今までになかったような職業を自分で起こすなど、チャレンジしてくれるのが一番ありがたい。そのためには事前に、若いうちから産業などを含めて自分の町を知ってもらい、まさにこの部分足りないから、自分は外へ出て勉強して、スキルを持って帰ってきて、足りなかった職業につきたいと思ってくれるような子どもが増えるのが理想。

【B委員】 もし、そういった部分があるのであれば、その人材育成、政策Iの教育の部分に、例えば高校時代から何か商いをやるだとか、起業家をめざす人を育てるだとか、おとし、浦河小学校の生徒が自分達で商品開発したドーナツを港まつりで販売するというをやっていたが、そういったことができる人材を育てるということも一つの政策だと思う。

【D委員】 基本構想というのは、2017年から10年間の構想だが、10年間の構想であれば、データはできるだけ最新のものを使った方がいい。例えばP2の人口だが、この表やグラフは国勢調査の数値だということはわかるが、人口に関して言えば、町が最新のデータを持っているはずなので、平成27年の国勢調査のデータではなくて、28年のデータを使ったらどうか。一万三千人をきっているという現実を数値として載せた方がいいのと思う。それと、JRの件だが、確かに今の時点での考えはわかるが、これが例えば来年、再来年の近い将来に結果、結論がでるようであれば、それがこの10年使う構想の中に載せる内容としてどうなのかなという風に思う。もし結果がでてしまったら、五年後とか七年後、十年後、非常に陳腐になってしまうのでないか。

【事務局】 JRのことは難しいところだが、町としては、存続という立場。

【D委員】 それは十分わかるが、この構想の中に書かなければいけない内容であれば、書いた方がいいとは思う。むしろ結論がすぐでるようなことが、この10年の構想の中に書かれることがどうかと。

【事務局】 その辺はちょっと考えさせていただく。

【B委員】 日高線がなくなると困るのは、車に乗れない方、高齢者の方、障がい者の方などが苫小牧、札幌へのアクセスができないということ、通院や高度な教育を受けに行くときのインフラがないということだと思う。日高線は、札幌、千歳方向だけだが、帯広からのアクセスをよくした方がいいという見方もある。長いスパンで、都市部との交通をどうするかなど、広い視野で考えてもいいのでは。

前回からの修正で違和感がある点が二点ある。P7の産婦人科の記載と高齢者ドライバーの

部分だが、P7の産婦人科の記載に関しては、浦河町に産婦人科がどうしても必要なのであれば、残す方向でがんばるっていうかたちで強く書いたほうがよい。高齢者ドライバーも、実際に事故が多くなっているかどうかという検証は必要だが、返納したら運転ができない、移動ができないから書かないじゃなく、そもそも移動ができるようにするという計画を立てないといけないと思う。

産婦人科に関しては、日高管内で出産、子育てできる町を浦河が担いますという風に謳うなど、強く推したほうがいい。

【E委員】 高齢者ドライバーは、いずれ絶対に運転できなくなる日が来るので、町内、広域、例えば日高管内、JRが通じているところまでの足っていうのを町内にもっと、確実に確保していくというのを謳わなければ住みやすい町にはならないのでは。日高線の復旧をこれからも強く推進していくというのであれば、町内で買い物できるような足の確保を確実にしていくという方を強くやってほしい。もし日高線復旧しても、やっぱり駅の近くの人であれば、駅に行って列車に乗れるが、東町の奥から東町の駅に出ていくのが大変なので、乗りやすく使いやすい交通網を町内で整えることも大事だと思う。

移住促進と住みやすい町というのは連動していると思うが、産婦人科がここにあって地元で産めるっていうのは今、貴重な時代になった。町であっても、このように大きな病院、中が出張医であっても、総合病院があるのはすごく大きい。ここで生きていけるという証だと思う。うちの子2人も、建替え前の日赤で生まれたが、いくら古くてもすぐそこで産めるっていうのは本当に大切なこと。移住促進で若い人に来てほしいなら、産んでから老後まで日々の生活を手厚く、福祉で守っていくという風にしなければ、移住もそもそも進まないと思う。町にある産婦人科を絶対守るっていう気概を見せてほしい。

総合計画の冊子の作り方が、文章の羅列で書かれると整理がしにくいので、図解とかグラフなどで見やすく作って一家庭に一冊配布し、浦河はこういう町をめざしていますというのを伝えることができるようなものにしてほしい。

【事務局】 総合計画本体とは別に、コンパクトにまとめたダイジェストをつくる予定。

【E委員】 パッと見でわかるものにしないと、見ずに終わってしまう。

資料2：第7次浦河町総合計画基本計画（案）について事務局より説明

【E委員】 「1.郷土愛を育む学習機会の充実」で、町内の小学校で乗馬教育の授業やスケート授業があるところ、ないところがなぜばらばらになっているのか。すごく不満で浦河小学校は乗馬もスケートもやっていない。でも、東部小は乗馬をやっているし、浦二中にはスケートリンクもある。学校に何回か保護者の意見として、言ってみたこともあるが、校長先生や、学校の流れに任されている。人材育成の土台づくりの面として、みんな公平に受けることのできるものとして、そこは浦河ならではの乗馬教育やその他のものも、小中学校はやるなら全校、公平にやれるように、町として決めてほしい。同じ義務教育なので。バス代などお金の事情もわかるので、そこにこそふるさと納税とか、そういうものをぜひ活用していただいて。全学校が等しく受けることができるように、まず町が基盤となって進めていってほしい。

「2.家庭・地域・学校が連携した教育環境の整備」で、東町ふれあい会館では小学校の学童保育を平日午後からいつもやってくれているが、中学生になったら、ふれあい会館が使えないと聞いてびっくりした。前にいた札幌の児童館は、小中高と時間帯に分けて、小学校の帰宅時間までは小学生、それ以降は中学生がもう少しいい、夜8時までには高校生、というように先生が対応していた。自分の家の近くに、家以外に居られる場所があるのはすごく大きいなと思っていて、高校生も来るのかなと思ったら、部活帰りとかバスケットボールしに来たり、先生と話しに来たりとか、すごくいいと思った。共働きで保育園に入っている子が卒園して、1年生になったからといって突然、留守番がうまくできるようになるわけじゃないので、放課後の居場所の充実をもっと図った方がいいのでは。親が帰るのが遅いとか、気持ちが寂しくなった時に、夜7時とか8時までいられる場所があれば、郷土愛につながるのでは。ふれあい会館、児童館の利用時間、使える生徒の年齢層の幅をもっと広げてほしい。

【事務局】 担当に確認してみる。

【F委員】 荻伏小学校と東部小学校の放課後の子ども広場が、夏休みや冬休み期間中やっていないので、休み期間中の日中の居場所みたいなものをなんとかできないか。

【E委員】 365日大人がつけないと思うが、各地域に子どもたちの居場所がある。安心できるまちづくりってそこじゃないかなと思う。そういうところに重点的にお金を使ってほしい。

【B委員】 施策①「ふるさと」をつくる人材の育成のめざす目標値が「浦河のことが「好き」と答える高校生の割合」が38%から60%にあげられているが、この目標に設定した理由と数値の理由は？

【事務局】 そもそも明確な根拠はないが、データが数値の中から目標値を決めた。みなさんからのご意見も踏まえて修正したい。

【B委員】 「浦河のことが「好き」と答えた高校生の割合」や「浦河にUターンしたいと思う高校生の割合」があがったとしても、その中でUターンしたいと思っても帰れない子がそのまま増えていたら結局何も変わらない。Uターンを希望して就職する人数を目標値として掲げた方がいいと思う。実際に就職したいと思う人が就職できたとか、Uターンしてきた子がこれだけ増えましたなど。

【事務局】 どこまで把握できるかという部分もある。調べてみる。

【D委員】 食育について記載をした方がいいのでは。すでに、給食で浦河の地元のものを食べるといふ給食の日を年に何回か設けているという話は聞いており、すでにやっているとは思いますが、それをもっと推進するという意味で。浦河の食材はおいしいというのを早い時期に子どもたちに教えるという意味での食育を、郷土愛を育てるところに入れてもいいのでは。

【事務局】 食育に関しては、次の施策②と、地産地消ということで、P39の政策Ⅲ活力を生み出すまちづくり、施策①農業の振興のところに、「オール浦河産学校給食の日」を記載。やはり地元のもので子どものうちから食べて、地元のものだと理解することは大切だと思う。

【D委員】 子どもたちにといい意味では、活力を生み出すまちづくりというよりは、郷土愛に満ちた人を育てるところにあった方がいい。ダブリになるかもしれないが、良い取り組みに関しては当然、構成が必ずダブってくる部分もある。どちらかということではなく、両方に記載があってもいい。

- 【G委員】 郷土愛の項目に戻るが、「浦河のことが「好き」と答えた高校生の割合が、38%。「好き」に限定しているが、基本構想のP3では、「好き」と答えたのと「どちらかと言えば好き」と答えたのが9割というのはすごいことだと思う。
- 【事務局】 浦河に戻って来たいと答えている子どもの9割が浦河のことが好き。逆に浦河に戻りたくないと答えている子どもは、5割しか好きとは言っていない。
- 【E委員】 好きだけど戻りたくないというのは、どういうことか。
- 【F委員】 戻れない、戻りたくない？
- 【事務局】 仕事もないし、戻れないのではという思いか。
- 【G委員】 それなりに理由があると思う。高校生に限定しちゃっている上、若い子は色々な経験をしたいし、華やかな都会で生活したいという思いもあるので、高校生に限ったら低い数値になるが、ある程度年齢が上の方や、第2の人生を送るような人に見てみたら、浦河にいてもいいという数値もでてくると思う。高校生に限定しないで、広い目で見てもいいのかなと思う。
- 【事務局】 教育的な取り組みで、若い子の郷土愛を育むことに特化させたため、高校生に限った。
- 【事務局】 いろんな課題がある。後継者不足と言われている部分では、就職だけではなく、家業を継ぐということを含めた時に、幼い時からこの町が好きだとか自分の家の仕事が好きだとか、そういう部分含めて郷土愛を育み、それを計るとしたら高校生の段階で、一回計るしかない。高校生の段階で、今38%しか浦河が好きだと言っていないので、そこを増やしていくことによって、職がないから帰ってこないではなく、帰ってきて起業したり、実家を継いだりということにつながるのではと考える。
- 【B委員】 施策①「ふるさと」をつくる人材の育成の部分で、小中学校までしかないと思う。P8の3. 高校教育の充実、4. 専修学校の充実の部分、これがまさに人材育成の最終地点だと思うので、この部分は施策①におり込んだ方がいい。前回の話でも、福祉系の人材が足りないということだったので、浦河高校は総合学科で福祉科もあり、起業家育成もできるカリキュラムも組めると思う。そういうことも含めて、小学校のうちに例えば自然教育で浦河のことを好きになってもらって、中学校でさらにそれを伸ばして、高校では実践してみようとか、福祉の仕事を体験するとか。あるいは起業のお試しをしてみるとか。そういった小中高が連動して、浦河を担う人材をどうつくっていくかというかたちで一本、串を通さない。残りたいと思って来て、かつ残れる能力を持った人をつくらないと残れないので、そういったことを一本通して、この施策①「ふるさと」をつくる人材の育成におりこんだ方がいいのではないかな。目標値の部分も学力だけではなくて、まさに起業した人とか、高校生が自分達で企画したプランがでてくるなど。
- 【D委員】 なんのために食育をやっているかということと考えたら、郷土愛を育むところに入るのが一番いい。いくつか入れるところあってもいいと思うが、逆にここ（郷土愛を育む部分）から落ちていたらいけないと思う。
- 【事務局】 浦河でも東部小学校と荻伏小学校で、田植えから刈りとりまでをやって、生産者の方を招き、食事会をやっている。その辺を含めて、どう盛り込めるかは検討したい。
- 【事務局】 さきほど話があったように、実施内容は学校によってばらつきがある。
- 【E委員】 それを言いたかった。浦河がすごいと思うのは、海のものも山のものもここで獲れてここ

で食べられこと。もし災害があったとしても、ここの中で生産者とみんながつながっていれば、どうにか生きていける。産地の強みだと思う。ここで出来たものを、作り手の顔が見えて食べるのは、一番おいしい。どうやって出来たかに興味を持つこと、生きていく上でそんな気持ちや考え方がやっぱりふるさとって…と思える子に育つと思う。

【会長】 施策①「ふるさと」をつくる人材の育成は、特に大きな課題。いろんな意見が出されましたが、次の施策②の審議に入ります。施策①と重なる部分はあるかもしれないが、ご意見ありましたらお願いします。

【H委員】 この件に関して、目標値が学力だけなので、学力以外の項目についても、目標値として書いてほしい。

【E委員】 小学校で高学年になると、学校で6時間も勉強したあとに、さらに家に帰って、宿題、家庭学習合わせて1時間以上やらなければならない。日高が道内、全国で学力最低と言われている中で、学校も考えてそのようにやっていると思うが、逆効果な気がしてならない。(学校から帰って来てから友達と遊ぶとか、帰って来てから学童に行って、学校以外の場所で過ごすとかそういう時間が全然ないため、郷土愛を育むというところでどうしてもつながらない気がする。生きてく力をつける方が、学力よりも大事だと思う。都会では学力重視になっていると思うが、そういうのではなくて、ここにいるからこそ、できる人間力というものを養う方に重点を置いてほしい。食育に関しては、地場産の生産地域を見に行くとか、浦河の地形、自然を見に行くとか、そのようなところに重点、時間を使ってもらいたい。学力一辺倒で計るのがあるがゆえに、子どもたちの可能性をもっと伸ばす時間が減っていると思う。去年始まったタブレットを活用した学習も、実際にはまだ数回しか触っていないという話も聞いた。本来、鉛筆で書くものをタブレットのタッチペンで書くので、(動作が)固まったとか、二度手間その時間が過ぎるという話を聞くと、とってはがゆくて。そうではなく、ここでめざすのは浦河で育める本当に地域愛につながる生きる力。生産者の方を見て、これを食べて僕は大きくなっているだとか、そういうところが最終的に色々なことに興味や関心を持つような子に育て、学習する意欲、なんでも知りたいと思う意欲につながると思う。

【事務局】 学力のとらえ方だが、自分たちが考えているのは、昔で言う読み書きそろばん、足し算引き算、今で言うと、掛け算、文字を書けるという部分が劣っているのではないかという部分がある。成人になっても、九九が言えないとか、そういうところをなくしていかなければならない。

【E委員】 今の日本の現状として、学力テストをやらなければいけない、やっているというのが前提だが、得手不得手もあるので、そういうしがらみがいろいろある中でも、浦河ではこの子の特徴を大事にしていきますとか、そのような差別化を図った、浦河地域の小学校であってほしいなと思う。

【事務局】 E委員が言うとおりの、めざす目標値をもう少し、増やしながらか、学力以外の部分でも。

【E委員】 学力も国語は百点だけど、算数は…という子もいる。なので、そこもがんばらなきゃいけない、努力をするということを教えなきゃいけないが、個性豊かな子を育てるという意味では、その子を大事にするという、本質が見えるような学校教育であってほしいです。

【G委員】 学力に関してだが、以前、日高振興局で行った日高学力向上フォーラムに参加し、いろん

な校長先生、教頭先生と話す機会があったが、学力にすごく差があるようだ。すごく出来る子と、すごく出来ない子がいて、間が空いているような二極性がある、そこでうまく合わせていけないというのも現状。少人数のところだと子ども一人ひとりに目がいくので、そういうところは学力が上がっている。浦河町内でも大きな学校は全く目が届かなくて、出来ない子に集中しちゃうので、出来る子はおろそかになって、その分自分達で勉強しなきゃいけない。下の子を連れていかないと、差が激しくなってしまうのでそれはどうしようもないという話は聞いた。浦河の特性としては、普通に中学校に入って、高校は一つしかないのも、しかも定員割れしている。その時点で競争意欲がないところもよくないのではないかな。のびのび過ごせる場所も浦河のいいところだが、他と競争して上をめざすってところがないという話もある。うちの子は、やりたい職業も将来を考えていることがあって、ここはどうしても町外にださなきゃいけないと考えている。浦河高校は総合学科で、進学にも力を入れてくれているようだが。上をめざさなきゃと思うところで、勉強しなさいと家では言っています。すごく遊ばせたい気持ちはたくさんある。自然がたくさんあるし。そこは理想と現実の違いなのかなと考える。

【C委員】 今、道教委の教育施策として、学力向上をどう底上げするか、いろいろな学校、教育関係者と議論しながら、やっている最中。今後、学習指導要領が変わり、小学校は32年から新学習指導要領が始まって、33年から中学校、34年から高校ということで、段階的にスケジュールがある。その中でこの基本計画に学習指導要領の中身を組み入れるのは時間的にズレがあるのでちょっと厳しい。今まで言われていた食育だとか、郷土愛も含めて、総合学習が平成12年、だいたい2000年から始まっている。年間の総合学習の時間は決まっており、その中で職場体験だとか、食育で稲作の授業、乗馬教育も含めて、学校の特色を出すために、各学校がやりくりしている。学校現場は保護者の意見は真摯に受けとめ、色々なことを詰め込んでおり、それを全部受けてやるというのは至難の業。学習の人材育成の基本は教育にあり、教育の底辺の底上げであれば、他町でもやっているような、ふるさと納税を活用して町で若い大卒の子を採用して各学校に配置し、T・Tみたいなかたちで進めるだとか。そういう方法もあるのではないかな。教員が少ない。学力の底上げを図るのであれば、そういうところに町で採用して取り組みをした方がよいのではないかな。とにかく学校現場はしんどい。

【I委員】 子育てサークルの活動について、みなさんどこまで知っているのか疑問。今、3つサークルがあり、昨年4月に募集すると、すごい人数が集まり、結局募集を打ち切りすることになった。参加している方のほとんどが転勤族。幼稚園も行っていないで、未就園児となると、なかなかお母さん同士のコミュニティも少なかったりするので、大げさなものではなく、もう少し町からサークルの支援があるとありがたい。町で子育てサークルに、浦河の企業側からこういうことをしましょうだとか、そういう提案もあってもいいのかなと。

【F委員】 転入してきたときは、家族構成がわかるので、その時にまなびのガイドブックなどを一冊渡すことができれば、サークルを知るきっかけになるような気がする。

【I委員】 子育て通信「えがお」も結局自分たちで見つけてどこかでもらってくる。「えがお」を子どもたちがいる家庭に必ず毎月配るだとか、ホームページでも見られることを周知するなど。また、サークルの活動に関しても自分たちで動くのは当然だが、町内企業との仲介やもう少し事

業者からもこういうことができますよという提案があるとありがたい。他にサークルがあつたらもっと入っていると思うし、コミュニケーションを持ちたいお母さんもいると思う。

【E委員】 浦河町では、平日どこかしらに、未就園児が遊べる場所がある。例えばサークルに所属するのが苦手なお母さんでも子どもを連れて遊びに行ける場所があるのはすごくこの町のいいところだと思う。転入者でなおかつ妊婦の人ではなくて、保健センターにまず初めに行かないような人たちにそういう案内を渡せるようにするといい。

【I委員】 私もそう思う。

【事務局】 町としては周知できていると思込んでいた。

【E委員】 転入するときにもらう一式の中にそれを入れてもらうととてもいいのでは。

【C委員】 転勤されてくる方は右も左もわからない。知らない町に来て、子育てする時にこういう情報を受けて、いろんなサークルに入ったりして、浦河ってこういう魅力のある町だって理解してくればまたその方が転勤されて、ロコミなど人の交流の中で、浦河は子育てするには非常に魅力ある町だと。行政も中心になって、いろんな関係機関とやっているという情報が道内各地にそういうところで魅力を発信できる。そのためには来ていただいたお母さんたちに厚い援助をしていけば見返りではないが、何か戻ってくると思う。

【I委員】 子育てに関しては、みなさん本当に、すごい子育てしやすいと話している。転勤、転入してくる方が多いので、浦河に転勤するって聞いた時に、浦河ってすごい子育てしやすいところだよねとみなさんに知ってもらえたらなと思う。

【E委員】 今の周知するようなものの一覧に、小中学校の子どもたちの放課後の居場所として学童とかも一覧にして、年齢を追って書いてもらえるといいのではないかな。

【G委員】 最初に子育てサークルをつくったメンバーに入れさせてもらってはいたが、その時は子育て支援センターの同じ年齢の子たちが遊ぶところに行って、仲よくなったお母さんたちでサークルを立ち上げてみないかと子育て支援センターの方に言われて、じゃあ立ち上げてみようかと。そういう経緯で立ち上げた。その時は仲のよい人たちだけでつくったが、さきほどの話で今はすごく希望者が多くて募集を打ち切るくらいということは、需用と供給があってない。私たちがサークルを立ち上げた後、とにかく室内で体を動かして遊ぶとか、手芸が好きなお母さん達が集まったサークルができた。何かに特化してもっといっぱいサークルをつくってもいいというアドバイスをしてくれたら、もっと入れなくて悲しい思いをしている親子さんがいなくなるのかなと思う。やっぱり何かきっかけがないと、動けないと思うので、特に転勤族の方はわからないこともいっぱいだし、子育て支援施設に遊びに行くというだけでもすごい勇気があることなので、ここでちょっと声をかけてあげるとか、別にサークルをつくってもいいんだよというかんじで話をすすめていってくれたらいいのかなと思う。

【B委員】 12ページで図書貸出冊数が目標値になっているが、貸出冊数が目標値っていうのは違和感がある。よく最近、図書館でベストセラーばかりが置いてあって、貸出冊数が稼げて、学習効果になっているのかという話がある。そこがまさにこれかなと思う。浦河は図書館の評価がすごく高いので、未読率、本を読まない人の率をこれだけ減らしますとか、もしくは小さいうちから読み聞かせの数を増やすとか。そういった質の方でやった方がいいと思う。貸出冊数は量になってしまうと思うので。また、さきほどの学校教育の部分になるが、町民の方、中学生、

高校生が TOEIC などの資格取得や、札幌でやる講演会だったり、何かしらのイベントに参加したいというときの支援や助成があるとよい。こういうことを学びたい、短期留学までいなくても、資格取得から短期留学まで。札幌での講演会、研究会、イベントに行きたいという子がいたときの支援だったり、サポートだったり、施策として学校教育なのか、生涯学習なのか、どちらかにあってもいいのかなと思った。

【会 長】 子どもたちがどこかに行きたいとかよく聞くが、そういう時の助成はすごく大切だと思う。全てについて助成というわけではなくて、例えば今年はいかたちで、子どもたちを集めて、研修等に参加させるよと。それに多くの子どもたちを出席させるのはいい方法かもしれない。次は、施策④豊かな心を育む文化芸術の振興、P13～P15について、みなさんからご質問、ご意見等受けたい。

【J 委員】 学童保育の施設で文化協会の会員が出向いて、伝統文化を体験させたいということで、何度か教育委員会に働きかけている。まだ実現していないで、今回も4月からぜひお願いしたいということで話している。10年位前に浦河小学校の総合学習の時間で2回ほど、校長先生からのアプローチもあり、文化会館に児童に来てもらい、小学5年生を対象に華道と茶道の実技をさせてもらった。それぞれ華道と茶道の起りから、総合学習でお手伝いさせてもらった。このところ働きかけても、受けてもらえず、頓挫している状態なので、活動をどのようにしたらいいのか悩んでいる。

【事務局】 やっていただけるとのことなら、ありがたい。

【D 委員】 P15の目指す目標値、博物館クラブ団員数54人を54人。これは現状維持だと思うが、子どもたちが減少する中で目標値としておかしくはないと思うが、P14で博物館クラブの育成を強化しますと言って、現状維持という数値はどうなのかなと。目標値とする以上は若干なりのプラスを入れた方がいいのでは。また去年は新しいアンモナイトが発見されたとか、新しい話題もありますので、子どもたちに町をよく知ってもらおうという活動を積極的にやった方がいい。

【E 委員】 子どもたちの伝統文化体験について、浦河小学校だったらふれあい会館とか、堺町だったら子育て支援施設というのがあるので、例えば何曜日の何時からはそういう日というのを毎週設けてもらって。協力していただける団体の都合が合えばだが、そうしていただくと、ただ毎日遊びに行っている子どもたちも、学校外で、しかも学校の先生じゃなくて地域の人とふれあう時間ができる。P15に「地域の財産であるアイヌ民俗文化財の保存と伝承」とあるが、去年町内に住むアイヌの方々の新しい任意団体ができた。私がすごくアイヌの方々の文化や生き方を尊敬しているので、親子で伝承会に参加したが、地域にしながら今の子たちは触れる機会がなかなかないので、地域を知るというところで、そういう方々に講師になってもらい、週1回とか放課後の中でふれあうという時間にしたら、放課後も充実するし、地域と触れあい、地域を知ることになるので、相乗効果があるのではないかなと思う。

【会 長】 施策⑤健やかな身体をつくるスポーツの振興、P16～P18についてお願いします。

【C 委員】 P17の1. スポーツの振興のところ、ファミリースポーツセンターの改修、見直しはあるのか？謳っているということはやるという前提？

【事務局】 まずはどのようにできるのか検討させていただきたい。改修ができるものなのか、それら

も含めて、40何年経っている施設なので、調査をしたいなと思っている。いずれにしても町の防災拠点としているし、スポーツの拠点としているので、何らかの手立ては打ちたいと考えている。

- 【E委員】 さきほどから何度も言っているが、ここにスポーツの振興とか、乗馬普及と謳うからには、小学校の授業の平均化をお願いしたい。
- 【I委員】 乗馬に関してだが、もう少しPRした方がいい。私も今乗馬教室に通っているが、転勤してきて何も知らない人にもわかるように、もう少し乗馬の教室のPRをしてもいいのかなと。
- 【E委員】 こういうのもやっぱり転入者の手元に渡る冊子に全部含めたらいい。
- 【C委員】 転勤族の方も多いので、せっかく馬産地浦河に縁あって来たのであれば、馬に触れ合う機会があるとよい。そういうかたちで時間と場所を確保していただければ、またリピーターになって、(外へ)出て行ってまた、浦河ではこういうのをやっていますよという風に広まって。また魅力ある町という情報発信になる。
- 【会 長】 当初は政策Ⅲまでいこうと思ったが、時間なので今日は政策Ⅰだけで、次回の会議で政策Ⅱ以降にいきたいと思う。
- 【事務局】 今日の進行を見させていただいて、やはりみなさん計画に興味がありますし、様々な意見もでてきて、当初6回程度という風に考えていたが、全てやり終わるまで開催したいなと思いますのでご協力をお願いいたします。
- 【E委員】 これをつくるにあたって、10年に1回のことなので、1年ブランクあってもいい。それくらいの気持ちでやってほしい。事務局からそのような話が聞けてよかった。
- 【事務局】 いいものをつくっていききたいので、ただつくるだけじゃなくて、みんなで共有していかないと、いい町づくりはできない。3月だからやめますというのではなくて、3月をこえるかもしれないが協力をお願いしたい。

4. 閉 会